

ビフィズス菌を用いた新規抗がん剤に係る共同研究契約を中外製薬株式会社と締結

株式会社アネロファーマ・サイエンス(本社:東京都、社長:三嶋徹也、以下 当社)は、このたび、中外製薬株式会社(本社:東京都、代表取締役社長 CEO:小坂達朗、以下 中外製薬)と新規抗がん剤の創製に関する共同研究契約を締結しました。

契約の概要は以下の通りです。

1. *i*-DPS 技術を活用した新規抗がん剤の創製に係る共同研究契約

本契約により、ビフィズス菌を利用した当社のプラットフォーム技術である *in situ* Delivery and Production System (以下、*i*-DPS)と中外製薬の有する創薬技術を組み合わせ、新規抗がん剤の創製に向けた共同研究を行います。尚、本契約により*i*-DPS 技術を適用する対象は両社で合意した特定の物質に限定されています。

2. *i*-DPS 技術と当社の開発プログラムについて

ビフィズス菌は主要な腸内細菌としてよく知られており、毒素など有害物質を産生せず、また酸素のない環境で生育する嫌気性菌です。標的となる固形がんは、正常組織とは異なり、酸素の少ない環境であることが知られています。当社は独自技術によりさまざまな組換えビフィズス菌を作製し、ビフィズス菌の特性を生かした抗がん剤の開発を推進しています。抗がん作用のある物質を産生するよう改変された組換えビフィズス菌を静脈から全身投与すると、酸素のない環境を好む性質により、固形がんを選択的に集積し、抗がん物質を産生します。腫瘍局所でのみ抗がん物質が産生されるため、正常組織への作用で起こる副作用の懸念が少ない抗がん剤が実現できます。*i*-DPS と呼ぶこの技術を用いたリード開発品 APS001F は、現在、米国で臨床試験が進行中です。

3. 株式会社アネロファーマ・サイエンスについて

アネロファーマ・サイエンスは信州大学で研究が進められていたビフィズス菌を用いた抗がん剤の実用化開発を企図して設立されたベンチャー企業です。本社は東京都千代田区、研究所は長野県松本市の信州大学松本キャンパス内に位置します。概要は次の通りです。

会社名 株式会社アネロファーマ・サイエンス

設立 2004年8月9日

主要株主 株式会社 産業革新機構、他

事業内容 ビフィズス菌を用いた新規抗がん剤及びデリバリー技術の開発

代表者 代表取締役 三嶋 徹也

従業員数 20名

本社 〒103-0028 東京都千代田区神田神保町 1-103 東京パークタワー201

研究所 〒390-8621 松本市旭 3-1-1 信州大学信州地域技術メディカル展開センター2F

本プレスリリースに対するお問い合わせは、こちらまでお願いします。

株式会社アネロファーマ・サイエンス

代表取締役 三嶋 徹也

電話 03-5577-6346 FAX 03-5577-6347

info@anaeropharma.co.jp

以上